

地域に信頼される「南九大方式」の確立を目指して

人間発達学部学部長

黒木 哲 徳

人間発達学部子ども教育学科は3年目を迎え、今年から本格的な実習が始まりました。

保育実習では、10日間ではあっても、これまでに経験したことのない長い時間を乳幼児と接することで、乳幼児に関わる方法や技能を学んでくれたことでしょう。幼稚園実習では3週間という期間でしたが、“遊び”が中心のカリキュラムにあって、子どもの発達に即した遊びをどのように作り出していくのか、またそれが発達に必要な知的な学習とどうかわっていくのかなど、実習を通して多くのことに気づいてくれたことと思います。私たちの学科では、それらに対応できる内容と方法を検討し、研究を積み重ね、学生の教育に生かしていく必要があります。とりわけ、我が国の幼児教育は、まだまだ立ち遅れているところがあります。偶然、ある県の広報誌が目にとまりました。この県では、幼児教育に取り組むために「県幼児教育支援センター」を開設し、ゼロ歳児から18歳までの教育を見据えて、とりわけスタート期である幼児の教育を推進するために、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭が一緒に学ぶ研修や講座を実施し、円滑な小学校就学につなぐ幼児教育の実現を目指すとしていました。諸外国の多くでは、すでに学校教育を見据えた1年間の就学前教育はしっかりと行われています。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭を育てる私たちの学部・学科でもこの県の取り組みには学ぶべきものがあると感じました。

また、小学校の教育実習が都城市と三股町の12の小学校で行われました。詳細は年報にもあるのでここでは省きますが、この実習の方法は「南九大方式」として、大変好評でした。学生たちにとっても大きな自信に繋がったことと思います。今後はこれらをさらに保育園、幼稚園にも発展させた取り組みにしていく必要あると考えています。また、12月には、鹿児島県曾於市の教育委員会から申し出があり、連携協定を締結し、いよいよ県境を越えた地域連携による教員養成もスタートします。創設3年目ですが、本学部・学科の取り組みが少しずつ地域に信頼されてきている表れだと考えます。

加えて、平成25年度からの特別支援教育の課程が認定されました。

いま、都城市はもとより、全国的にも発達障害をはじめとする特別支援を必要とする子どもたちが増えてきています。この学部・学科が、このような状況も踏まえて、少しでも地域の子どものための発達支援のシンクタンクの役割を担えたらと考えています。

かつて、数学教育協議会（通称“数教協”）の会長であった遠山啓氏（故人）等が、障害のある子どもたちの算数教育に取り組み、水道方式という教育方法を通して、多大な貢献をされました（遠山啓編『歩きはじめの算数』：国土社）。今年度の都城市との連携講座の「学力向上シンポジウム」は特別支援教育がテーマでしたが、そのゲストとして来られた石井バーグマン麻子氏（福井大学教授 / 特別支援教育）は、水道方式を取り入れた障害のある子どもの算数教育からスタートされています。私自身は、古くから算数（数学）の持つ特異性に関心がありました。ある子どもは算数（数学）だけがよくできる、またある子どもは算数（数学）だけがわからないといったことが起きるからです。そのために、かなり古いこととなりますが、『数学理解の認知科学』の著者として知られるラトガース大学（アメリカ）のデーヴィス氏（故人）を訪ねたり、『数学学習の心理学』で有名なスケンプ氏（当時はすでに故人でした）のウォーリック大学（イギリス）を尋ねたりしました。この課題は私にはあまりに大きすぎて進展はしていませんが、たまたま、滞在中のウォーリック大学の本屋で目にとまったのが“Special Need Education for Child”（スケンプ氏の書かれたものではないが・・・）でした。この本を通してSNEの重要性について知ることとなりました。それまで、私には古い時代の障害児という概念しかありません

でした。その後、我が国でもLDやADHDなどの発達上の問題を持った子どもたちが認知されるようになりました。特別支援教育はいまや教育の現場において猶予できない課題であり、子どもの育ちを支援する本学部・学科にとっても避けては通れません。

最後に、この1年の動きで残念なことは、35人学級の実現に向けて、教員の1万9400人の純増が予定され、平成14年度からは新学習指導要領やキャリア教育に対応するために5年間で4万人の教職員の増が予定されていましたが、政権の交代で予算が削除されてしまったことです。先進国における21世紀の大きな課題として、平成11年のケルンサミットで「ケルン憲章」を採択し、教育の重要性を共通の認識とし、その施策が我が国でも実行されようとしていた矢先のことだっただけに残念でなりません。

しかし、教育は国家百年の計と申します。明日の社会を担う子どもたちの育成に関わる質の高い保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭の養成を通して、地域の発展に貢献したいものです。

2013年2月1日